

平成27年度 あきたスマートカレッジ (報告)

B：史料で紐解く秋田の歴史

会場：秋田県生涯学習センター3階 講堂

【趣旨】「秋田藩家蔵文書」をはじめ、県の指定文化財の史料や歴史的に重要な史料をもとに、秋田の歴史を鮮やかに紐解く講座です。

回	期 日	テーマ	講 師	参加者数
1	9月12日 (土)	「秋田藩家蔵文書」と秋田の中世	東京大学史料編纂所 准教授 金子 拓 氏	69
2	9月26日 (土)	「梅津政景日記」と秋田藩の初期藩政	秋田大学教育文化学部 教授 渡辺 英夫 氏	82
3	10月10日 (土)	「国典類抄」からみた秋田藩の藩政 ～十八世紀の社会変動への対応～	元埋蔵文化財センター所長 高橋 務 氏	63
4	10月24日 (土)	「絵図史料」と秋田藩の歴史	秋田県立能代高等学校 教諭 太田 研 氏	64
5	10月31日 (土)	「賀藤家文書」と秋田藩の林政 ～親子二代にわたる森づくりへの挑戦～	日本学術振興会 特別研究員PD 芳賀 和 樹 氏	47
6	11月14日 (土)	「渋江和光日記」と秋田藩の上級武士 ～後期秋田藩政と引渡・廻座の諸相～	秋田県公文書館 古文書班嘱託 渡部 紘一 氏	71
7	11月21日 (土)	「風俗絵巻」「町触控」と秋田の風俗	秋田県立博物館 主査(兼)学芸主事 新堀 道生 氏	76
8	11月28日 (土)	「戸村家文書」と秋田藩の幕末	東北大学災害科学国際研究所 助教 天野 真志 氏	77
合計				549名

歴史的に重要な史料をもとに秋田の歴史をたどることで、真実の歴史に触れたと思える講座でした。ここでは4回目の講座について報告します。

江戸幕府は日本全体の絵図作成を目的に各藩に国絵図の作成を命じました。それは寛永期・正保期・元禄期・天保期の4回ありました。寛永期は準備段階といえるもので、正保期のものが正式なものと考えられますが、各藩の境界がはっきりしていなかったこともあり、幕府の方でつなげてみてもうまくつながらないことから間違いがあることがわかったようです。そこで、元禄期の国絵図作成に当たっては、国境を確定させよとの命令もありました。ところが秋田藩では、南部藩との国境を「森吉山」と記述し続けており、長らく誤りに気づけなかったのです。原因は実際に現地で確認すること無く絵図が作成されたことにあったようです。享保期に測量技術が発達し、「測量基準となる山を報告せよ」との幕府からの命令でようやく秋田藩も誤りに気づいたのでした。天保期になってから正確な国絵図が作成され、幕府に提出されました…。



県公文書館に保存されている国絵図は「幕府に提出した絵図の控」ですが、その大きさ故に実物を閲覧することはできませんでした。県公文書館では平成25年度に絵図史料のデジタル化事業を実施しており、太田氏が担当でした。最後の「ぜひ、閲覧端末で今日の話を確認いただきたい」との言葉に、「これは見に行かなければ」と誰もが思ったことでしょう。